

# Do-Re

北海道立図書館レファレンス通信

No.41(通巻 45 号)

平成 23 年 2 月 18 日発行

## 【目 次】

- [こんながあります](#) —いちおしレファレンス・ブッカー 【31】 ..... 1  
地域版人名事典のこだわり
- [市町村のみなさんからの発信](#) 【30】 ..... 2  
「実力を試されるレファレンス」 京極町生涯学習センター湧学館 向出絵梨香 さん
- [Librarian's Box\(しよぼこ\)](#) 【26】 ..... 3  
～ 平成 22 年度全国公共図書館研究集会（サービス部門 総合・経営部門） ～
- [課員のつばやき](#) —日々の業務からの短信— 【28】 ..... 4  
必見！こんなことができる NDL-OPAC
- [レファレンスサービスに関する雑誌記事紹介 \(2010 年 10 月～12 月分\)](#) ..... 5
- [News](#) ..... 6
  - 1 アメリカ図書館協会年次会議参加報告会開催 (10/1)
  - 2 市町村図書館職員レファレンス体験研修の実施 (2010.10～12)
  - 3 わかりやすい健康に関する情報講座開催 (10/28)
  - 4 書庫ツアー開催 (11/3)
  - 5 暮らしに役立つ法制度セミナー開催 (11/20)
  - 6 道民カレッジ連携講座開催 (12/1, 12/15)
  - 7 国立国会図書館サーチ (開発版) 公開 (12/4)
  - 8 法情報コンシェルジュ養成講座開催 (2011/1/26～27)
- [編集後記](#) ..... 8



北海道立図書館

HOKKAIDO PREFECTURAL LIBRARY

地域版人名事典のこだわり

自分のご先祖様から歴史上の有名人まで、人物を調べる場合にも図書館はよく利用されます。ご先祖様を調べる方の場合はお盆時期、年末に多くなるのが赤穂浪士、年初には大河ドラマの主人公を調べる方が増えるなど、季節ごとの特長もみられます。

今回は、祖先にゆかりの人物のように限定された地域を調べる場合や有名人であっても出身地やゆかりの地ならではの記述を探す場合など、“地域”を手がかりに人物を探す際に便利な県単位で出版された人物事典を集めてみました。

**青森県人名事典** 青森 東奥日報社 2002 (R281.21/A)

物故者約 3,000 人の歴史編と現存者約 2,300 人の現代編に大別した編集の書。

**秋田人名大事典** 第 2 版 秋田 秋田魁新報社 2000 (R281.24/A)

戦国織豊時代から現在までの物故者 3,610 人を収録。郷土史家による小伝や人物をより深く知りたい人のために参考文献や新聞記事の出典元も記載。

**栃木県歴史人物事典** 宇都宮 下野新聞社 1995 (R281.32/TO)

「栃木県民なら知っていなければならない」、または「知っていてほしい人」という基準で選ばれた約 2,000 人の県内外で著しい業績を上げた物故者を収録する。

**静岡県歴史人物事典** 静岡 静岡新聞社 1991 (R281.54/SH)

静岡新聞社 50 周年記念で出版された 70 年ぶりの人物事典。厳選約 2,000 人を収録。

**大阪人物辞典** 三善貞司編 大阪 清文堂出版 2000 (R281.63/O)

神代の時代から現代まで 3,871 人を採録する。ボクシングトレーナーや侠客など 343 もの職種分野から広く収録しているのは驚異的。芸能関係者や文学作品上の人物も収録。

**岡山県歴史人物事典** 岡山 山陽新聞社 1994 (R281.75/O)

県内在住と出身者で 1993 年末までに亡くなった故人を対象に古代から現代に至る 5,100 人を収録する。巻末付録には系図、政治家一覧あり。関係市町村別人物索引あり。

**島根県歴史人物事典** 松江 山陰中央新報社 1997 (R281.73/SH)

創業 115 年の地元新聞社が取り組んだ県内初の総合的な人物事典。出雲神話に登場する神々をはじめ、古代から現代まで 2,700 人を収録。関連資料や肖像画も充実する。

**高知県人名事典** 新版 高知 高知新聞社 高知新聞企業(発売) 1999 (R281.84/KO)

古代から現代までの 3,421 人の物故者を収録。(半数以上に写真か肖像画を付す)。巻末資料に 40 種もの人名一覧があり、中には勤皇党员処刑者や土佐海援隊士名簿なども。

**徳島県人名事典** 徳島 徳島新聞社 1994 (R281.81/TO)

平成 4 年時点の現存者に限定。本人回答票を基に作成。政治、官公から宗教まで分野別索引もあり。別冊の『徳島県歴史人物鑑』には県出身の屯田兵一覧表も収められる。

**大分県歴史人物事典** 大分 大分合同新聞社 1996 (R281.95/O)

地域、年代別人名索引あり。1,860 人を収録する。

## 市町村のみなさんからの発信 【30】

「実力を試されるレファレンス」 京極町生涯学習センター湧学館 向出絵梨香さん

京極町生涯学習センター湧学館ではレファレンス担当の職員がいるわけではなく、質問を受けた職員が調査を引きうけて対応しています。行き詰ったり、手がかかりそうだと判断した時には他の職員に応援を頼んだり、道立図書館へ調査をお願いすることもあります。但し、だいたいは「この本（こういう本）ありますか？」というような質問なので、その本の紹介・貸出をしたり、リクエストとして受けて相互貸借に回すなど他の図書館さんにもいつもお世話になっています。

湧学館で受けたレファレンスの一部は、ホームページの“レファレンスルーム”に掲載しています。（<http://lib-kyogoku.cubet.com/>）

昨年1月に「雪・北国の暮らしについて調べたい」という小学校3年生の調べ学習の申し込みがあり、パスファインダーを用意して待っていたのですが、当日は吹雪のため来館が中止に…ということもありました。結局調べ学習としての来館はなくなり資料は先生に貸し出しましたが、日の目を見ることのなかったパスファインダーはホームページへの掲載としてなんとか表に出すことができました。今年はもう少し手を加えて、館内で活躍させようかなと考えているところです。…今年の冬は調べ学習に来ないのかな～？

この小学3年生の調べ学習での来館は毎年あり、1クラス約30人が「昔の京極について」「昔の生活について」「水・川について」などのテーマで本を探しにやってきます。一応グループごとに分かれているようなのですが、グループによってはすでに自由行動になってしまっているところもあり、書架をうろうろする子・別のグループにくっついてきている子・検索パソコンを使いたくて並んでいる子（待たされるので忍耐のある子のみ）・そして職員を質問攻めにする子など…がどっとやってくるのです。先生から連絡が来るたびに「今年もこの季節が…！」と身が引き締まる思いで臨んでいます。

使える資料は当然数に限りがあるのでどうしても“早い者勝ち”になってしまいがちなのですが、手を替え品を替え、言葉巧み(?)に、何とか1冊は納得して手に取ってもらえるように、郷土資料～児童書～一般書を総動員させて対応にあたります。毎年これでどれだけの本を紹介して、子どもたちが満足してくれるかが一つの力試しのようで、子どもたちに成長させてもらっているなど実感しています。

私が一番手こずってしまうのは「昔の京極について」の質問だったりします。湧学館の2階には郷土資料コーナーとして、年表のパネルや実際に使われていた農機具・鉄道などの展示があり、それを見てもらえるのが一番良いのですが、『図書館に来たら、本で調べなくては！』という思いがあるようで、何かしらの本を見つけるまで納得してもらえないこともあります。京極町史などでの対応がメインになっているのですが、現在湧学館では昭和32年創刊号からの“広報きょうごく”完全復刻を進めています。この復刻版が完成すれば子どもたちの調べ学習はもちろん、一般の方にも昔の京極を知ったり懐かしんだりできるとてもいい資料になるのでは、と今からワクワクしているところです。せっかくの資料もただ持っているだけでは宝の持ち腐れ。資料が活躍できるように腕を磨かなくては、と思っています。

## Librarian's Box (しよぼこ) 【26】

～ 平成 22 年度全国公共図書館研究集会（サービス部門 総合・経営部門） ～

研究主題 レファレンスが支える図書館サービスの未来  
平成22年11月9日(火)～10日(水) パレプラン高志会館(高山市)

日程表 11月9日(火) (敬称略)

基調講演	資料提供としてのレファレンス・サービス	富士大学経済学部教授 斎藤文男
事例発表	これからの地域におけるレファレンス	横浜市都築図書館司書 吉田倫子
	レファレンス協同データベース -概要と活用法-	国立国会図書館関西館強力課 佐藤久美子
	まちづくりを支援する図書館活動とレファレンス	東近江市立永源寺図書館司書 嶋田学
	レファレンスを支える地域資料情報サービスの行方	富山県立図書館主任司書 長田和彦
11月10日(水) (同)		
情勢報告		(社)日本図書館協会理事 前田章夫
全体会	レファレンスが支える図書館サービスの未来	助言者 斎藤 パネリスト 吉田、佐藤、嶋田、長田 助言者 前田
図書館見学	舟橋村立図書館/富山県立図書館(希望者のみ、選択制)	希望者のみ

参加者は北海道から沖縄まで210人超、北海道からは1人でした。

内容は、日程表のとおり多彩なものでしたが、富士大学の斎藤教授の基調講演の内容が、議論の中心になったり、事例発表の通奏低音となっていたように感じました。

それは、十分理解していながら、慣れなどから疎かにしてしまいがちな、レファレンスの土台になる姿勢といったようなものだと思いますので、基調講演の一部を御紹介します。

### 1 日常的におさえておくべきこと

(1) レファレンスは調べものの手伝いであり、調査代行とは違う。

質問者をカウンターに待たせておいて、司書が資料をいくつか見繕ってカウンターに持っていくというような場面はよくあることですね。しかし、司書が合わなかった資料に、質問者が求める情報があるかもしれません。ケースバイケースですが、できることなら、質問者を書架に案内し、背表紙を見たり資料をめくりながら、質問者自らが情報を取捨選択して回答に近づいていくのが、望ましいのでは？

(2) レファレンスデスク(カウンター)に利用者がきたら・・・

まずやっている仕事を止める→(自分が)座っていたら立つ→視線をあわせる

### 2 利用者自身による「セルフ・レファレンス」を促す設えをつくる。

(1) 使いやすい配架づくり・・・適切な配架(利用者層に応じて分類が異なる資料を並べて配架するなど。例えば、「ペット」と「動物」を一緒にした配架があってもいい。)、話題性の高い分野の集中展示、主題性の強い参考図書的一般書との混架など)

(2) 使いやすい環境づくり・・・OPACの操作性向上、一般的なことばによる館内サイン

(3) 質問しやすい雰囲気づくり・・・書架案内は職員が出向いて行う。返却図書の配架・整架は職員が行う。

### 3 まとめ 「司書は、積極的にフロアに出よう」

司書が配架や整架でフロアにすることで、効率よいレファレンスが実現できる。なぜなら・・・

(1) 利用者をもっとも抵抗感なく、司書に声をかけられる。

(2) 時間と場所に拘束されないので、十分なレファレンス対応が可能

(3) その「やりとり」を別のお客が見ており、これがもっとも有効なレファレンスのPR

(4) 返却本の群れ・書架の乱れで、利用者の今の関心事・興味分野が把握できる。

(5) 配架中や整架中にレファレンスに使える資料を理解できる。

※ 本稿は、斎藤教授の基調講演及び研究集会資料を基に、筆者の解釈を交えて構成しました。特に、3の部分は資料からほとんどそのまま引用しました。

## 課員のつぶやき 一日々の業務からの短信—【28】

必見！こんなことができるNDL-OPAC

昨年11月11～12日、国立国会図書館で開催された『科学技術情報研修』に参加してきました。1人1台ずつパソコンが割り当てられ、2日間「特許情報」や「規格資料」、「博士論文」「会議資料」等、国内外のデータベースにみっちり触れてきました。未だに消化しきれていない部分もありますが、以前に比べれば英語論文も怖くなくなったかな？

さて、この研修の最初にNDL-OPAC（国立国会図書館の資料検索）の使い方について講義がありました。書誌探しが雑誌記事検索などで活用しているサイトですが、実は便利な機能がついているのはご存知でしょうか。

右の画面は、一般資料の検索の詳細画面です。書誌事項の上に、「他のデータベースへ」という文字があります。こちらをクリックすると、探している本が他にどここの図書館にあるのか、関連情報は他にどこにあるのかなど関連するデータベースへのリンク集が開きます。

例えば、『NII Webcat Plus』の横にある“GO”というボタンを押せば、大学図書館の所蔵がわかりますし、『総合目録ネットワークシステム』の横にあるボタンを押せば、各都道府県立図書館や政令指定都市の図書館の蔵書がわかります。また、『Amazon』にもリンクが貼っているのでも、レビューを見たり、また購入の可否を調べることもできます。『GeNI』を使えば、この作者の雑誌論文などを検索することができます。



雑誌記事検索時も同じように「他のデータベースへ」と表示されます。

こちらでは、『NII Webcat Plus』による大学図書館での所蔵確認はもちろんのこと、『J-Stage』という科学技術系論文を検索することができるデータベースにもリンクが貼ってあります。本文の閲覧について、有料の論文も多くありますが、無料で見ることができる論文も含まれていますので、利用者自身が自宅などのパソコンで見ることが可能です。

今回は、NDL-OPAC の実は使える機能について紹介しましたが、別の機会に他のデータベースの話をしていきたいと思います。

# レファレンス・サービスに関する雑誌記事紹介

(2010年10月～2010年12月分)

※ 論題(記事名)、著者、雑誌名、出版者/編者 巻号、発行年月、掲載ページの順に記載  
(参考:国立国会図書館NDL-OPAC 雑誌記事索引。 MAGAZINE PLUS)

- 1 都立中央図書館の健康・医療情報サービスの実際 / 島林智香子 『Lisn』 キハラマーケティング部 / キハラ株式会社マーケティング部 編 (145) [2010. 秋] p. 1~4
- 2 主体的な調べ学習をどう進めるか—「教えてほめる」行為が子どもを伸ばす(特集 自主性を育てる)—(学校で自主性・自律性を育てる) / 大前暁政 『児童心理』 金子書房 64 (14) (通号 920) [2010. 10] p. 1212~1216
- 3 地域資料・情報サービスの本格的な展開を(下) 公共図書館の中核的サービスに位置付けるために / 戸室幸治 『みんなの図書館』 教育史料出版会 / 図書館問題研究会編 (通号 402) [2010. 10] p. 45~56
- 4 れふあれんす三題噺(その173) 熊本県立松橋養護学校図書館の巻 可能性を信じる心—一本を楽しむ子どもたち—特別支援学校の場合 / 庄山美喜子 『図書館雑誌』 日本図書館協会 104 (10) (通号 1043) [2010. 10] p. 678~679
- 5 教師を対象とした学校図書館を活用した調べ学習の支援(メディアの活用と教育・学習環境/一般) / 今井亜湖; 河西由美子 『日本教育工学会研究報告集』 日本教育工学会 10 (4) [2010. 10. 23] p. 115~118
- 6 チャートで考えるレファレンスツールの活用(ステップ31) チャート言葉・地名・人名などのよみを調べる(2) / 大串夏身 『あうる』 図書館の学校 / 図書館の学校機関誌事業委員会 編 (97) [2010. 10・11] p. 56~59
- 7 調べ学習をしたことのある教科/調べ学習のときに使う資料/調べ学習で感じたこと(特集 '10 子どもの読書と学校図書館の現状)—(第56回学校読書調査報告) 『学校図書館』 全国学校図書館協議会 (通号 721) [2010. 11] p. 33~36
- 8 れふあれんす三題噺(その174) 奈良県立高取国際高等学校図書館の巻 レファレンスには笑顔と言葉を添えて—毎年出会うレファレンス事例から / 榎田久子 『図書館雑誌』 日本図書館協会 104 (11) (通号 1044) [2010. 11] p. 738~739
- 9 れふあれんす三題噺(その175) 天理大学附属天理図書館の巻 天理図書館の利用—特に貴重書等の特別資料について / 加藤重光 『図書館雑誌』 日本図書館協会 104 (12) (通号 1045) [2010. 12] p. 802~803

# NEWS

## 1 アメリカ図書館協会年次会議参加報告会開催（10/1）

10月1日（金）、札幌市中央図書館3階講堂において、6月末にワシントンD.C.で行われた同年次会議に参加した司書4名による報告集会があり、当館からは資料課の伊藤主任が報告を行いました。図書館と異分野が提携する事業や、多彩な内容のホームページ等、最新のアメリカの図書館事情を聞き、意見を交換しました。

## 2 市町村図書館職員レファレンス体験研修の実施（2010.10～12）

10月から12月にかけては、中札内村、豊頃町の2館3名の職員が来館してレファレンス体験研修を行ないました。

中札内村の研修者は、3日日程ということで、レファレンス研修のほか、資料の修理方法や館内案内等に時間を多く取ることができました。

豊頃町の研修者は2名で、レファレンス方法を重点的に研修を行いました。平成13年度からのレファレンス体験研修から数えて、160名の方に受講していただいたことになります。

（10/13～15 中札内村1名、11/19 豊頃町2名）

## 3 わかりやすい健康に関する情報講座開催（10/28）

10月28日（木）、北海道医療大学札幌サテライトキャンパスにおいて、北海道医療大学・北海道立図書館共催セミナー「わかりやすい健康に関する情報講座」を開催しました。コメディカルスタッフや一般の方を対象に、専門家による講演と図書館ならではの医療情報の入手法を道民に紹介しました。

## 4 書庫ツアー開催（11/3）

11月3日文化の日に合わせて、今年度3回目となる書庫ツアーを開催しました。当日は34名の参加があり、2班に分かれて、普段は入ることができない書庫を1時間半ほど見学しました。旧分類や栗田文庫等、古い資料の解説に興味深く耳を傾けていました。今年度最後となる第4回目は、2011年2月2日開催です。

## 5 暮らしに役立つ法制度セミナー開催（11/20）

11月20日（土）、札幌市中央図書館3階講堂において、道民カレッジ連携講座「暮らしに役立つ法制度セミナー 司法制度改革と図書館」を開催しました。日本司法支援センター札幌地方事務所と札幌市中央図書館との共催で、法制度に関する知識を深めるとともに、公立図書館を利用することで暮らしの課題に対する可能性が開けることを道民に紹介するもので、当日は43名の方の参加がありました。

## 6 道民カレッジ連携講座開催（12/1, 12/15）

12月に、道民カレッジ連携講座「インターネット活用術 図書館員が選んだお役立ちサイト」を2回の日程で開催しました。参加者1人1人がパソコンを操作できるよう、会場は当館の隣にある道立教育研究所附属情報処理センターで行いました。

講座は、無料で利用できるインターネット情報の検索の仕方を解説するもので、12月1日は放送・映画編、12月15日は雑誌・新聞編として開催しました。

各回、10名以上の参加があり、当館ホームページのDo-Linksの利用方法の他、当館の役割などを説明することができました。

## 7 国立国会図書館サーチ（開発版）公開（12/4）

国会図書館ホームページで、新しい検索サービス「国立国会図書館サーチ」開発版が公開されています。国会図書館が所蔵する図書の全てを探ることができるほか、都道府県立図書館、政令指定都市の市立図書館の蔵書、国立国会図書館デジタルアーカイブポータル（PORTA）が収録している各種のデジタル情報も探すことができます。

平成24年1月の本格稼働を目指して、開発段階のシステムを試行的に公開していますのでぜひご利用ください。

- ・国立国会図書館サーチ（NDL Search）：<http://iss.ndl.go.jp/>

## 8 法情報コンシェルジュ養成講座開催（2011/1/26～27）

『Do-Re』44号のNEWSでも速報としてお知らせした、法律関係資料に強い図書館員＝法コンシェルジュ養成講座が、2011年1月26日、27日の両日、札幌市中央図書館3階講堂で開催され、公立図書館、大学図書館の職員を中心に112人が受講しました。



## 編集後記

- ◆ 「科学技術情報研修」は、たくさんの発見があって大変有意義でした。先日も洋雑誌の論文についての問い合わせがありましたが、この研修で学んだことが活かされました。今後、機会を作って学んだことを出していければと思います。(on)
  
- ◇ 今まで、編集後記で何度か書いた道立図書館の庭に出てくるエゾリスですが、最近は見かけることもあまりなく、図書館エゾリス友の会としてはさびしいかぎりです。その代わりというわけでもないのですが、札幌市円山動物園の「ドサンコの森」には、数匹のエゾリスが手で触れるほど近い所にいて楽しませてくれます。(T)
  
- ◆ 1月26～27日に開催された「法情報コンシェルジュ養成講座」には112人が参加しました。岩隈道洋杏林大学准教授の講義は大変わかりやすく、法令や判例の基本がよく理解できました。講座の要点は今後本誌でも紹介していきますが、講師推薦書の1つ「リーガル・リサーチ」(日本評論社 2008)にはエッセンスがぎっしりです。未見の方は是非。(Y)
  
- ◇ 今号の“市町村のみなさんからの発信”は京極町の向出さんから、毎年子ども達を待っている図書館員の気持ちがわかる楽しい原稿が寄せられてきました。ありがとうございます。文中でもレファレンス・ページのことを紹介されていますが、京極町の湧学館のホームページでは、「今日の湧学館」や「水」にこだわった「水コレクション」リスト、道新書評掲載本など充実かつユニークな盛りだくさんのメニューが用意されています。(へ)



### **Do-Re(どうれ)の由縁**

“どうりつとしょかんレファレンス”の  
略から名付けました。  
しかしながら  
“どれどれレファレンス”からとの説もあります。

---

THE REFERENCE NEWSLETTER OF HOKKAIDO PREFECTURAL LIBRARY

## **Do-Re**

**北海道立図書館レファレンス通信 No.41(通巻45号)**

発行年月日 平成23年2月18日  
編集 北海道立図書館参考調査課  
発行 北海道立図書館  
〒069-0834 北海道江別市文京台東町41番地  
TEL 011-386-8521 FAX 011-386-6906  
<http://www.library.pref.hokkaido.jp>  
e-mail: [sancho@library.pref.hokkaido.jp](mailto:sancho@library.pref.hokkaido.jp)

---